

JICA 教師海外研修 授業実践報告書

【実践者】

氏名	堀越 日南子	学校名	東京都立西高等学校
担当教科等	外国語 (英語コミュニケーションⅡ)	対象学年(人数)	2年A組(39名)
実践年月日もしくは期間(時数)	2025年11月～12月(5時間)		

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：外国語（英語コミュニケーションⅡ）		
2. 単元名と単元目標 単元名： Lesson 6 IT and Life “Living for Today” 単元目標：タンザニアの文化や社会に対して理解を深める活動を通して、自分自身の生きがいや価値観を捉え直し、これらを適切に表現したり伝え合ったりすることができる。 関連する学習指導要領上の目標：（3）話すこと〔やり取り〕イ		
3. 単元の評価 規準	①知識・技能	ITに関する語彙・表現、倒置・関係副詞非限定用法の文法事項の理解を深めるとともに、物語文を聞いたり読んだりする活動において、これらを適切に活用できる。
	②思考・判断・表現	自分自身の生きがいや価値観について話したり書いたりする活動において、これらを適切に表現したり伝え合ったりすることができる。
	③主体的に学習に取り組む態度	タンザニアの文化や社会に対する理解を深め、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
4. 単元設定の理由・単元の意義 (児童／生徒観、教材観、指導観)	【単元設定の理由・単元の意義】 本単元の題材である Living for Today は、教師が JICA 教師海外研修中にタンザニアで触れた生きがいや価値観である。小川さやか著『「その日暮らし」の人類学 もう一つの資本主義経済』（光文社、2016 年）でこれらは述べられている。タンザニアの今を豊かに生きる価値観に触れることで、生徒自身の生きがいや価値観に揺らぎを与えることを目指す。 【児童／生徒観】 本校の生徒は、高い知的好奇心を持ち、英語学習にも前向きに取り組んでおり、国際理解や国際交流への興味関心は高い。ただし、アフリカへの興味関心は限定的であるため、教師のタンザニアでの実体験や写真を多く取り入れる。また、2 学年生徒は進路選択や大学受験の悩みを抱え始めており、本単元で異なる価値観に触れることは有効である。 【教材観】 本科目の教科書『ELEMENT English Communication II』（啓林館）の Lesson 6 IT and Life では、A Long Way Home という題の、IT の発展がインドの 1 人の青年の人生にもたらした影響についての物語文を読み、その内容についてリテリング活動を行う。教科書の学習内容と関連付け、インドとタンザニアの関係や、タンザニアでの IT の発展についても取り上げ、学習内容を発展させる。 【指導観】 本科目は、教科書と大学入試長文読解問題集を主に使用しながら、ALT との チーム・ティーチング やオンライン英会話活動も行い、英語の 4 技能 5 領域を統合的に育成し	

	ている。本単元では、本研修で学習した、知識構成型ジグソー法やフォトランゲージを実践することで、題材内容を中心に据えながら、これらを理解し、考えを深め、英語で表現することを重視する。			
5. 単元計画（全5時間）				
	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	Introduction	タンザニアへの興味関心を高めることができる。	・ Presentation（夏休みの思い出を1枚の写真とともに紹介し合う） ・ Photolanguage（教師のタンザニア滞在記について聞く）	・ 生徒が準備した写真 ・ 自作スライド（フォトランゲージ用の写真）
2	Lesson 6 #1	A Long Way Home（物語文）を聞いたり読んだりして的確に理解することができる。	・ Dictation（リスニング帯活動） ・ Extensive Reading（多読帯活動） ・ Speed Reading ・ Vocabulary ・ Comprehension (Overview, Main Idea, Details, Recognizing Tone) ・ Discussion	・ 教科書 ・ 自作スライド
3	Lesson 6 #2	A Long Way Homeの内容について話したり書いたりして適切に表現することができる。	・ Dictation（リスニング帯活動） ・ Extensive Reading（多読帯活動） ・ Speed Reading ・ Retelling ・ Writing Opinions	・ 教科書 ・ 自作スライド
4	Lesson 6 #3	A Long Way Homeの背景にある開発途上国の現状や課題に対して理解を深めることができる。	・ Dictation（リスニング帯活動） ・ Extensive Reading（多読帯活動） ・ Watching a Video ・ Discussion	・ 自作スライド ・ 動画（YouTube: Saroo Brierley on his life journey that inspired "Lion"）
5 本時	Application	タンザニアの Living for Todayの価値観に対して対話を深めることができる。	・ Warm-up ・ Jigsaw Activity (Pre, Expert, Jigsaw, Cross Talk, Post) ・ Discussion ・ Reflection	・ 自作ワークシート ・ 自作スライド
6. 本時の展開（5時間目）				
本時のねらい：タンザニアのLiving for Todayの価値観に対して理解を深めるジグソー活動を通して、自分自身の生きがいや価値観を捉え直し、対話を深めることができる。				
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態			指導上の留意点（支援）
導入 (5分)	○Warm-up 【Step 1：Pre】 T：We learned about Saroo, an Indian boy, and how IT changed his life. What do you think Saroo values in his life? Also, what do you value in your life? S1：I think Saroo lives for his family and for his identity. S2：I'm not sure yet, but maybe I live for my family and for my dreams.			・教科書の学習内容と関連付け、自分自身の生きがいや価値観を意識化するきっかけにする。 ・ロイロノートのアンケート機能を活用し、自分自身の意見を共有させる。
展開 (40分)	○Jigsaw Activity T：Do you remember which country I visited this summer? Yes, Tanzania! Today, I want you to think about what people in Tanzania value in their lives. What do you think people in Tanzania value in their lives?			・教師のタンザニアでの実体験や写真を多く取り入れ、タンザニアへの興味関心を高めさせる。 ・スライドで主発問を明示する。

まとめ (5分)	【Step 2 : Expert】 T : First, you will receive one of three reports: A, B, or C. Next, get into groups of three or four and read the same report together. Then, discuss the content with your group to make sure you all understand it. S1 : Report A “Nyerere and Ujamaa” S2 : Report B “Swahili and Culture” S3 : Report C “Mobile Phone and M-Pesa” 【Step 3 : Jigsaw】 T : Get into new groups of three. Make sure your group has three different reports. Then, explain your report, discuss your ideas, and work together to answer today’s question. S1 : I think people in Tanzania value connection and cooperation in their lives. S2 : Why do you think so? S3 : All three reports talk about their relationships with family, friends, and the community. ○Discussion 【Step 4 : Cross Talk】 S : We think people in Tanzania live for connection and cooperation. All three reports show that they value enjoying the present moment with their family, friends, and community. T : An anthropologist who studies Tanzania says that people there often “live for today” and live fully in the present moment. I think this could be a key to understanding their values in life. ○Reflection 【Step 5 : Post】 T : Again, what do you value in your life? What do you live for, and why do you think so? S1 : I live for spending time in the present with the people around me because it makes my life more meaningful and valuable. S2 : I want to live for making the most of today because it will lead to a better future.	・スライドで図示し、活動説明を簡潔にする。 ・グループで同じ資料を読み合い、そこから読み取れるタンザニアの人々の価値観を言語化させる。 ・エキスパート活動中は、必要に応じて、追加で調べ学習をしてもよいことにする。 ・自分自身の言葉で、意見が伝わるように説明することを意識させる。 ・ジグソー活動中は、机間指導をし、各グループの対話を支援する。 ・数グループに全体へ意見とその理由を発表させる。その後、ロイロノートの共有機能を活用し、思考を深めさせる。 ・教師の意見や価値観の押し付けにならないように、本単元で取り上げたタンザニアがタンザニアの全てではないことに留意する。 ・学習の前後で同じ発問をし、自分自身の生きがいや価値観を捉え直させ、思考の変容を見取る。
7. 資料（教材） ・知識構成型ジグソー法：資料 A 「ニエレレとウジャマー」 資料 B 「スワヒリ語と文化」 資料 C 「携帯電話とエム・ペサ」 ・資料 A 「ニエレレとウジャマー」では、JICA タンザニア事務所訪問より、ニエレレ初代大統領の平和と統一の維持、民族部族間対立・宗教間対立なし、その背景にあるスワヒリ語の国語・公用語としての採用、ニエレレが理想とする社会ウジャマー（family-hood 家族）、チャリンゼ県庁地域開発課が融資支援をする養鶏場訪問より、スワヒリ語による女性達の連帯感、ケニア・タンザニア送電線訪問より、地域協力による平和維持、を取り上げる。 ・資料 B 「スワヒリ語と文化」では、スワヒリ語の代表例として、「カリブ（ようこそ、どういたしまして）」「ポレポレ（ゆっくりと、落ち着いて）」「ハクナ マタタ（問題ありません）」、その背景にある縦軸の時間よりも横軸の時間を優先する文化、ムワンバオ小学校訪問より、授業用語のスワヒリ語と、		

アザニア中学校訪問より、試験のための授業用語の英語との対比、を取り上げる。 ・資料C「携帯電話とエム・ペサ」では、タンザニアにおける携帯電話やインターネットの急速な普及、エム・ペサ（携帯電話を利用した送金サービス）、誰もが誰かに金銭を貸していると同時に、誰もが誰かに金銭を借りているという状況、バガモヨ県病院訪問より、医師や看護師の携帯電話やSNSの使用、その背景にある生きがい・やりがい、を取り上げる。		
8. 評価規準に基づく本時の評価方法 ・ジグソー活動や対話活動を通して、自分自身の生きがいや価値観、思考に変容がある。 ・自分自身の生きがいや価値観を適切に伝え合うことができる。 （授業中の発言、ロイロノートの提出物）		
9. 学校外との連携 ※JICA 以外。なければ不要。		
10. 学びの軌跡（児童生徒の反応・変容、感想文、作文、ノートなど） ・生徒の主発問に対するロイロノート上の記述 ① 関係性や協力についての記述		
We think people in Tanzania live for peaceful and considerate relationships because they want people around them to be happy.	We think people in Tanzania live for <i>relationship .</i> because <i>people in Tanzania think relationship makes peaceful world.</i>	We think people in Tanzania live for <i>connection between people</i> because <i>they cherish his friends and family.</i>
We think people in Tanzania live for relation with people because they wanted to avoid conflict and maintain stability in the country which has many ethnic group.	We think people in Tanzania live for connection because their culture values it.	We think people in Tanzania live for good relationships between a lot of people because they use their original language Swahili for better connection between their family, friends, ethnic and other country's people and peace through smoothly and clearly communication.
We think people in Tanzania live for making reliable relationship like family because they cherish to maintain their calmful lives and communication by having some relaxed spirit of their culture.	We think people in Tanzania live for their identity because they unite, cherish their connections and do anything for themselves.	We think people in Tanzania live for peace because they often cooperate with each other.
② 幸せ、優しさ、多様性などについての記述		
We think people in Tanzania live for happiness because they cherish their life that they spend time peacefully by using technology and interacting with others.	We think people in Tanzania live for kindness because they try to be nice to other people and take time to make friends with strangers.	We think people in Tanzania live for making multicultural society because there are traditional culture, high level technology and they try to coexist.

【本時または単元について、個人で振り返ったことを記載】

11. 海外研修で何を学び、どの部分を児童生徒に伝えようと思ったか	タンザニアでの研修で多くの学びを得たが、それぞれの学びとしての点を単元の題材としての線に形作ることを重要視した。研修中のモヤモヤを大切に、これらを様々な文献を通して紐解き、Living for Today の価値観を題材にした。また、生徒が全人格的な英語コミュニケーション能力を身に付けるためには、英語運用能力を育成するためだけの英語教育では不十分であり、国際理解教育が不可欠であると考え、本研修で学習した、日々の教育実践への内在化も意識し、教科指導の中で授業実践を行うことにした。
12. 苦労した点	ジグソー活動で使用した3種類の読み物資料の作成が最も苦労した点である。Living for Today の価値観のヒントになり、タンザニアで特に印象的であった学びを中心に、文献内容と実体験に基づいて作成した。多くの学びから、「ニエレレとウジャマー」「スワヒリ語と文化」「携帯電話とエム・ベサ」に焦点化し、高校英語の難易度に英文を調整することは困難であったが、生成 AI なども適宜活用し、推敲を重ねることで、最終的には満足いく教材を自作でき、参観した先生方からも高評価をいただいた。
13. 改善点	ジグソー活動で、資料から読み取れるタンザニアの人々の価値観を、生徒が自分自身の言葉で意見が伝わるように説明する際に困難さが見られた。授業後の協議会でも助言をいただいたように、資料を読み合う際に、キーワードと思われる語句に印を付けさせるなどの足場掛けの支援を増やすことが改善点として考えられる。また、そのキーワードを選んだ理由を追及することで、対話をより深めることが期待できる。普段の教科書指導の際にも足場掛けを増やすことを意識したい。
14. 成果が出た点	ジグソー活動での生徒の記述内容から、今を豊かに生きるという Living for Today の価値観を捉えたものが多かったことは、成果が出た点と言える。タンザニアの人々の価値観を、家族、友人、近隣との関係性や協力と思考し、これらに関連した、幸せ、優しさ、平和、コミュニケーションの重要性も捉えていたことから、生徒の大半が本時のねらいを達成できたと考えられる。また、本時はロイロノートなどの ICT を積極的に活用した点も参観した先生方から高評価をいただいた。
15. 自由記述	本研修では、タンザニアの国際協力現場を実際に訪問し、五感を通して学び、その経験から授業実践の種を数多く得ることができ、非常に貴重な機会であった。また、国際理解教育に情熱溢れる、様々な校種・教科の先生方とともに学ぶことができ、大きな成長の機会にもなった。本研修にご尽力いただいた全ての皆様に感謝を申し上げたい。今後も英語教育と国際理解教育を両軸とした授業実践を重ねることで精進していく。

参考資料・使用教科書：

浅井誠『稲穂の波の向こうにキリマンジャロ タンザニアのコメづくり半世紀の軌跡』

佐伯コミュニケーションズ、2023 年

小川さやか『「その日暮らし」の人類学 もう一つの資本主義経済』光文社、2016 年

栗田和明、根本利通『タンザニアを知るための 60 章【第 2 版】』明石書店、2015 年

日本国際理解教育学会『国際理解教育を問い直す 現代的課題への 15 のアプローチ』

明石書店、2021 年

教科書『ELEMENT English Communication II』啓林館